

# 日本の服飾の研究

## —紋章について—

### その3 現代紋章の分布

若山初子

1. 緒言
2. 現在における紋章の分布
  - a 植物紋
  - b 動物紋
  - c 文様紋
  - d 器財紋
  - e 天文・地理紋
  - f 築造物紋・文字図符紋
  - g 各地方における多用紋について
3. 同一紋章における種類および形式について

#### 1. 緒言

今までの日本の家はそれぞれの家に紋所があった。しかもそれが歴史の流れと共に子孫に受け継がれて発展したのである。新憲法制定後は封建的な家の制度は失われ、また家の格式を誇示する紋章への価値と認識は低下してきた。しかし親子、兄弟のある限りはやはり何かの形をとって家の観念は受け継がれ、紋章も家紋という形において継承されていくものと思われる。

また一面において現在の科学技術および消費文化の発達は衣生活の面でも急速な向上を遂げ、伝統ある日本服を材質や染色等の技術面からもいやが上にも向上させ、日を追って優美にまた豪華なものに発展させている。生活様式は次第に洋式化されているのに反し、衣生活の面においては復古調の波に乗って礼服である紋付きの需要が伸びてきている。そしてここに付される紋はあるいはその家の紋であり、また商品メーカーの好みあるいは宣伝のままに各自の紋とは無関係に用いられるもの、あるいは造形美の上から用いられるものそれぞれである。

紋章の発生の起源、その変遷等を解明していくことは造形史的にきわめて意義あることであ

る。また豪族の榮達にともない地方的に浸透していった紋、あるいは土着信仰の対象とされた神社、仏閣の紋の普及等にみられる紋の分布とともに地方的特色を探り出すことも歴史的に興味深い問題である。

現代社会においては家紋の地方色を見ることは困難なことであり、紋章に対するイメージの自由化はこれに一層拍車をかけていると思われる。しかし現在どのような紋が多用されているか、または地方的特色の残存している紋の有無を調べることも紋章の歴史をひもとく上の大切な一要素と思われる。

以上のような観点から全国主要都市百貨店の御厚意により昭和43年3月末現在より、過去2~3カ月の紋章の調査を行なった。調査方法は百貨店が依頼された紋の紋章名をそのまま記入していただき、著者がそれを各編に分類したものである。

#### 2. 現在における紋章の分布

紋章の分類は便宜上、地理的の区分で行なった。その結果を表1、表2に示す。

表1の結果から全体的に考えられることは、東北・関東・中部・近畿・四国・九州のそれぞれの地域において多用されている紋の数による順位が皆同じということである。すなわち、植物紋>文様紋>動物紋>器財紋の順に用いられており、他の紋の数はきわめて少なく各地域とも植物紋が他の紋に比べて圧倒的に多い。地域により調査数が異なるため断定的な結果とはいわれないが、全地区において同じ順位性を示していることは紋章の普及に共通性のあることが考えられる。

表1 各都市における調査紋章数

	仙台	盛岡	福島	合計	横浜	宇都宮	東京	水戸	合計	新潟	富山	岐阜	長野	静岡	金沢	甲府	名古屋	合計
植物編	684	162	77	923	116	121	96	71	404	118	65	110	110	77	108	84	98	770
動物編	78	25	17	120	27	19	22	18	86	13	6	8	6	7	5	9	2	56
器財編	75	12	9	96	12	5	5	3	25	4	2	4	12	5	3	8	5	43
文様編	193	85	22	300	26	53	27	27	133	21	34	24	24	26	39	38	23	229
天文地理編	29	4	4	37	6	5	5	7	23	2	4	4	3	1	7	3	24	
建築物編	11	5	1	17	2	1	2	1	6		2	4	3	2	2	2		13
文字図符編	2		1	3	3	1	1	1	6		1	2	2		2			7
その他	9			9		1			1			1						1
合計	1,081	293	131		192	206	158	128		158	108	154	163	121	158	150	131	
総計				1,505				684							1,143			

	大阪	京都	姫路	合計	岡山	広島	松江	鳥取	合計	高知	徳島	合計	福岡	鹿児島	熊本	長崎	合計	総計
植物編	266	119	134	519	339	123	153	78	693	16	54	70	1,146	463	114	86	1,809	5,188
動物編	37	6	9	52	65	33	11	3	112	2	1	3	89	71	27	16	203	632
器財編	4	3	2	9	1	3	9	2	15		1	1	58	13	5	5	81	270
文様編	39	15	5	59	12	8	103	7	130	6	1	7	248	120	43	30	441	1,299
天文地理編	1			1			1		1				14	6	4		24	110
建築物編	1			1		1	5		6				2	14		1	17	60
文字図符編													5	1				16
その他																		17
合計	348	143	150		417	168	282	90		24	57		1,562	688	193	138		
総計				641				957			81				2,581			7,592

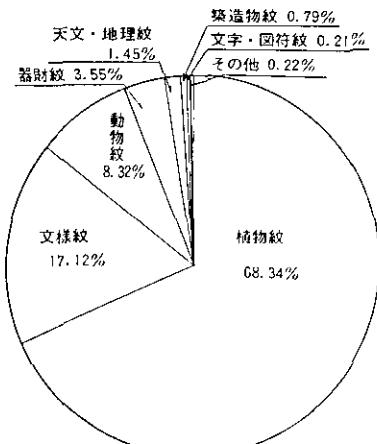


図1 全国使用紋章数比率

図1に全国における植物、文様、動物、器財、天文地理、建築物、文字図符、その他の紋の比率を示す。

図1の結果から調査紋章数のうち、その68%が植物紋であり次に用いられている文様紋は17

%で植物紋の1/4にすぎず、動物紋はさらに文様紋の1/2しか使用されていない。またその他の紋はずっと少なくなる。このことにより、我々の衣生活をとりまく周囲の現象の中で、前論文にも述べたように衣服の文様は勿論のことそれに付せられた紋にいたるまで、美しい植物が占めていることがわかる。

以上の順位をさらに都市において見ると横浜、長野、名古屋、姫路、岡山、広島のみが1位の植物紋が多いことは変わりないが、後の順位が異なる。これは調査数の関係でここで見られる順位がその地方の特色を示すものとは考えられない。

しかし以上の6市の順位から一つの特色として地域的に共通性のあることが推察される。すなわち地続きである姫路、岡山、広島は動物紋が文様紋より多く、また名古屋、長野は動物紋より器財紋が多くなっている。この要因につい

表2(A) 植物の分類表

表2(C) 文様紋の分布

表2(B) 動物紋の分布

紋類		都市名		種類						七宝紋					
紋	類	都	市	木瓜紋	目結紋	巴紋	花菱紋	龜甲紋	引両紋	麥紋	鱗紋	角紋	輪連紋	唐花紋	輪紋
東北地方	仙臺	宮城	仙臺	91	34	23	12	9	10	5	2	6	1	1	1
		福島	福島	40	19	25	4	2	3	9	1	1			
		青森	青森	9	3	2	6	6	2	2					
		岩手	岩手	56	30	30	11	15	14	3	7	1	1		
中部地方	横濱	神奈川	横濱	10	3	2	3	2	2	2	1				
	東京	東京	東京	34	4	7	5	1	4	4	4	4			
	名古屋	愛知	名古屋	11	5	2	3	3	1	7	1	1			
	岐阜	岐阜	岐阜	61	15	18	16	3	1	7					
近畿地方	大阪	大阪	大阪	11	1	1	3			3	1				1
	京都	京都	京都	13	6	2	6			1					
	神戸	兵庫	神戸	27	1	1	3								
	奈良	奈良	奈良	34	1	1	4								
	和歌	和歌	和歌	7	1	4	3								
	三重	三重	三重	10	4	3	3								
	滋賀	滋賀	滋賀	10	4	4	4								
	京都	京都	京都	9	3	2	12								
	奈良	奈良	奈良	12	17	17	41								
中国地方	福岡	福岡	福岡	15	5	1	12	1	1	3	2				
	大分	大分	大分	6	1	1	5	1	2	1	2				
	宮崎	宮崎	宮崎	6	1	1	2	19	1	1	6				
	鹿児島	鹿児島	鹿児島	7	2	2	19								
	沖縄	沖縄	沖縄	21											
四国地方	高知	高知	高知	4											
	徳島	徳島	徳島	1											
	香川	香川	香川	1											
	愛媛	愛媛	愛媛	1											
	高知	高知	高知	1											
九州地方	福岡	福岡	福岡	96	17	21	65	9	5	25	1	5	1	1	4
	大分	大分	大分	20	3	11	4	11	6	19	1	1	1	1	1
	宮崎	宮崎	宮崎	14	7	6	11	11	4	23	1	1	1	1	2
	鹿児島	鹿児島	鹿児島	40	25	25	19	23	5	47	103	14	10	1	31
	沖縄	沖縄	沖縄	170	52	52	47	47	103	14	10	1	1	1	2

表2(D) 器財紋の分布

歴の類 種類		矢 紋	車 紋	笠 紋	州 浜	七 宝	帆 紋	地 紙	鉢 紋	瓶 子	鉢 紋	木 算	分 木	鉢 紋	金 輪	龟 甲	輪	鷲 紋	鷹 紋	杏 葉	鶴 紋	狼 紋	輪	鼓 紋	紙 國	折 敷	寶 結	紋	鉢 紋	
都市名																														
東北地方	仙台 盛岡 福島 計	9 2 4 15	6 3 3 6	37 12 2 43	2 1 1 14	1 1 2 1	1 1 1 1	2 3 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 2 1	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1															
関東地方	宇都宮 水戸 計	4 2 5	1 2 5	3 1 3	2 1 3	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1																					
中部地方	新潟 富山 長野 群馬 栃木 甲府 名古屋 計	1 2 1 1 1 1 6	1 3 1 1 1 1 12	1 1 1 1 1 1 3	1 1 1 1 1 1 3	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 6	1 1 1 1 1 1 1																					
近畿地方	大阪 京都 神戸 計	3 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1				
中国地方	岡山 広島 鳥取 計	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1				
四国地方	高知 徳島 計	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1	1 1			
九州地方	福岡 鹿児島 長崎 計	10 3 2 15	8 5 2 13	1 2 1 2	2 1 1 2	1 1 1 1	4 3 2 6	4 2 1 3	4 2 1 5	4 2 1 6	4 2 1 5	1 1 1 6	1 1 1 5	1 1 1 3	1 1 1 5	1 1 1 5	1 1 1 2	1 1 1 5	2 2 1 4	2 2 1 2	1 1 1 5	2 2 1 4	1 1 1 1	1 1 1 1						

表2(F) 繊造物・文字図符・その他の紋の分布

表3(A) 多く使用されている植物紋(各都市の植物紋中の%)

都 市	非 常 に 多 い も の		多 い も の		比較的多いもの
	30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	
東北地方 仙台 盛岡 浜岡	葛 酢漿草	桐 柏, 葛	梅, 柏, 藤 桐, 柏 藤	葛, 酢漿草 梅, 藤, 酢漿草 桐	葛, 酢漿草 梅, 藤, 酢漿草 桐
関東地方 横濱 宮原 京戸 東水		酢漿草 柏, 藤, 酢漿草 藤, 酢漿草	藤 葛, 梅, 柏, 藤 橘, 沢潟	桐, 葛, 柏, 若荷 桐, 葛, 茗荷 桐, 桔桔, 酢漿草 竹筐	
中部地方 新富 岐阜 長野 静岡 沼津 府中 金沢 甲府 名古屋	葛 桐 葛 酢漿草 酢漿草	桐, 酢漿草 酢漿草 柏	葛, 柏 葛 梅, 柏, 藤, 酢漿草 梅, 柏, 藤, 酢漿草 橘 葛, 桐, 桔梗	葛 桐, 梅, 柏, 桔梗 葛 梅, 柏, 藤, 酢漿草 梅, 柏, 藤	酢漿草 茗荷, 沢潟 竹筐, 酢漿草, 桔梗 葛 桔梗 桐, 桔梗, 藤, 酢漿草 梅, 柏, 藤
近畿地方 大阪 京都 姫路 阪神	桐 桐 桐	葛	桔梗	柏, 酢漿草 桔梗 桔梗	
中国地方 岡山 広島 松江 江戸	葛	桐, 葛 酢漿草	桔梗 桐 葛 桐	葛, 桔梗, 藤 桐, 茗荷, 橘	酢漿草
四国地方 高知 徳島 知島	桐 桐			橘	
九州地方 福岡 児島 鹿児島 熊本 長崎	藤	桐	酢漿草, 桐, 梅	葛, 桔梗 梅, 桔梗, 葛 茗荷 桐	梅, 藤 桔梗, 梅, 橘

表3(B) 多く使用されている動物紋(各都市の動物紋中の%)

都 市	非 常 に 多 い も の		多 い も の		比較的多いもの
	30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	
東北地方 仙台 盛岡 浜岡	鷹羽 鷹羽 鷹羽	蝶 鹿角		蝶	鷹, 鶴
関東地方 横濱 宮原 京戸 東水	鷹羽 鷹羽 鷹羽 鷹, 鷹羽	蝶		蝶	蝶
中部地方 新富 岐阜 長野 静岡 沼津 府中 金沢 甲府 名古屋	鷹羽, 蝶 鷹羽, 鷹羽 鷹羽, 鷹羽 鷹, 鷹羽	鷹羽, 鷹 蝶 鷹羽, 鷹羽 蝶	鷹羽	鶴 雁	鶴
近畿地方 大阪 京都 姫路 阪神	蝶 蝶 蝶	鶴			鶴 鷹羽

中国地方 岡山 広島 松江 江戸 取	蝶 蝶 蝶 蝶羽, 蝶 蝶				
四地方 高知 徳島 知島					
九州地方 福岡 鹿児島 熊本 長崎 本崎	鷹羽 鷹羽 鷹羽 鷹羽, 鷹 蝶 蝶	鷹羽	鷹 蝶	鶴 鶴	

表3(C) 多く使用されている文様紋(各都市の文様紋中の%)

都 市	非 常 に 多 い も の		多 い も の		比 較 的 多 い も の
	30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	
東北地方 仙台 盛岡 福島 島嶼 台 岡島	木瓜 木瓜 木瓜	目結 花菱	目結	巴 菱 目結	巴, 引両
関東地方 横濱 宇都 宮東京 戸	木瓜 木瓜 木瓜		花菱 目結	目結, 花菱 巴 目結, 引両 菱, 花菱	巴, 菱, 引両, 亀甲, 鱗 目結, 花菱 巴
中部地方 新潟 富山 長野 岐阜 静岡 愛知 名古屋	木瓜 木瓜 木瓜 木瓜 木瓜 木瓜 花菱 木瓜	花菱, 木瓜 目結	花菱 巴 花菱, 菱, 巴	菱, 花菱 鱗 目結	菱 巴, 花菱 花菱 目結
近畿地方 大阪 京都 姫路	木瓜, 花菱 木瓜, 花菱			目結 菱	菱
中国地方 岡山 広島 松江 江戸 取	花菱, 木瓜 木瓜 花菱		巴	木瓜 花菱 木瓜, 目結	唐花 菱 巴
四地方 高知 徳島 知島					
九州地方 福岡 鹿児島 熊本 長崎 本崎	木瓜 木瓜 木瓜 木瓜	花菱 目結 花菱	巴, 花菱 目結	菱 巴 花菱, 目結	巴 引両

表3(D) 多く使用されている器財紋(各都市の器財紋中の%)

都 市	非 常 に 多 い も の		多 い も の		比 較 的 多 い も の
	30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	
東北地方 仙台 盛岡 福島 島嶼 台 岡島	車 扇, 車	車, 鉄抜	扇, 笠	扇, 笠 弦巻, 縪室	矢 七宝, 棋
関東地方 横濱 宇都 宮東京 戸	扇	車	州浜		鉄抜, 櫻, 金輪

中部地方	新潟・富山・岐阜・長野・静岡・愛知・名古屋	矢	釘抜			扇, 七宝, 弦巻
近畿地方	大阪・京都・姫路					
中国地方	岡山・広島・松江・鳥取					
四国地方	高知・徳島					
九州地方	福岡・鹿児島・熊本・長崎	矢	扇	扇車, 地紙	矢	懸斗 轡

ては後述したいと考える。次に表1を分析し、各都市の紋の種類および数を表2に、さらに表2紋中、多用されている紋を表3に示す。

### a 植物紋

表2、表3の結果から植物紋について東北地方でいえることは、全体としては桐紋が多いが都市によりその特色は必ずしも同じではない。すなわち仙台市においては桐紋が最も多く用いられているが、盛岡は薺紋が圧倒的に多く桐紋の約2倍になっており、ちょうど仙台と盛岡の桐紋と薺紋の関係は逆になっている。また福島市においては酢漿草紋が多用され、次に用いられているのは柏紋・薺紋となり仙台市において最も多用されている桐紋は5位にとどまっている。

以上三都市を比較して見ると、多用されている紋の順位は必ずしも同じでなく三都市とも柏紋が比較的共通に多く用いられているといえる位で、順位の類似性は考えられない。

また関東地方においては仙台・盛岡に見られたような特に一種の紋の多用は認められないが、横浜においては酢漿草紋が比較的多く用いられており、次いで藤紋が用いられている。また宇都宮市においては柏紋・藤紋・酢漿草紋の3つが次に使われている桐紋・薺紋・茗荷紋等の2倍の割合で用いられており、水戸は藤紋・

酢漿草紋が多くまた、東北地方および関東の3市ではあまり多用されていなかった橘紋・沢鴨紋が多用されているのも一つの特色である。また東京においては特に一種類の紋が多用されている傾向は見られない。

中部地方の8都市における傾向を見ると新潟市においては植物紋118のうち、実に70%近くの82紋が薺紋を用いており、この割合は他の都市の多用紋章のパーセントに比べるとはるかに高く、また他の紋の使用はかなり少なくなっているのが大きな特徴である。長野市においてはきわめて多く用いられている紋章はないが酢漿草紋・茗荷紋・柏紋・藤紋・沢鴨紋が多用されており薺紋・橘紋がこれに次ぎ、比較的多種類の紋が多用されていることがわかる。また富山市においては桐紋・酢漿草紋・薺紋・柏紋の順に用いられており、桐紋・酢漿草紋が比較的多く用いられている。金沢市においては新潟市と同様に薺紋が圧倒的に多く、同市で用いられる植物紋の41%を占め次いで用いられているのは酢漿草紋で他の紋章の用いられ方は少ない。しかし岐阜市においては桐紋が圧倒的に多くなり同市で用いられている植物紋の42%を占め、次に用いられている藤紋の約4倍になっている。また岐阜市の特徴といえるものは今までの都市においてはあまり用いられていなかった

竹籠紋が次に多用されていることである。名古屋市においては酢漿草紋が最も多く用いられており、次いで薦紋・桐紋・桔梗紋と続く。また静岡市においては長野市と同様に特に多用されている紋章は少ないが柏紋・酢漿草紋・梅紋・藤紋の使用が多く、また甲府市も同様な傾向を示し一番多く用いられているのは柏紋で次は橘紋である。

以上中部地方で考えられることは新潟と金沢が特に薦紋が多いこと、および岐阜市において桐紋が多用されていることである。しかも新潟市における薦は姫薦が圧倒的に多く、同市において用いられている薦紋82のうち実に74を占めている。また金沢における薦は最も普通に用いられている薦である。また酢漿草紋は東北の福島市、関東地方および中部地方で多用されている。その他の紋章については特に多用の傾向は見られず、また順位の類似性も考えられない。

近畿地方において大きな特徴と考えられることは京都・大阪・姫路共に最も用いられているのは桐紋であり、それぞれ用いられている植物紋の51%、30%、46%を占めていて、今まで述べてきた東北・関東・中部地方に比べその比率はかなり高くなっている。また3市共、薦紋・桔梗紋の使用が多くその順位は京都では桔梗紋・薦紋の順に用いられており、大阪・姫路は薦紋・桔梗紋の順である。しかも大阪・姫路においての薦紋の多用が目につく。

次に中国地方においては岡山・広島市において桐紋の多用が目立ち、また次に多用されているのが薦紋・桔梗紋であり、大阪・姫路・岡山・広島と地理的な関連も考えられる。また山陰である鳥取・松江においては鳥取は薦紋が多く同市植物紋の50%を占めており次は桐紋である。また松江市においては酢漿草紋が最も多用されており次に用いられているのは薦紋である。

近畿地方と山陽地方における多用紋章は類似性を示すが、松江市においては中部・関東地方で比較的多用されている酢漿草紋が薦紋と共に多く用いられているのが特色である。

四国地方においては高知・徳島共に桐紋が最も多く用いられている。

九州地方の福岡市においては桐紋が最も用いられており、次に多用されているのは薦紋・桔梗紋・梅紋・藤紋であり調査数の多い福岡市においては他の都市より用いられている紋章の種類が多い。長崎市においては藤紋の使用が目立ち、次に用いられているのは桐紋である。熊本市において最も用いられているのは酢漿草紋でこれに次いで桐紋・梅紋が用いられ、次に茗荷紋も比較的多く使用されている。また鹿児島市においては最も多く用いられているのは福岡市と同じく桐紋であり、梅紋・桔梗紋・薦紋と続く。

九州地方においては比較的に桐紋が多く用いられており薦紋・桔梗紋が多いのは近畿・中国地方と同じであるが梅紋が上位を占めているのが特色である。

ここで前論文で述べた札幌市を見ると桐紋が最も多く、植物紋の37%を占め、次いで薦紋の11%、酢漿草紋の10%、柏紋の9%がこれに次ぐ。

以上植物紋においては全国的な傾向として多用されている紋章は限られている。すなわち種類多い植物紋の中で表2によてもわかるように柿紋・瓜紋・牡丹紋・柳紋・鉄仙紋・椰紋・蕨紋・梨紋は1氏のみしか用いておらず、またごく少数の氏しか用いていない紋章もかなりの数にのぼる。このような傾向を見る時に数多い植物紋中において全国的に多用されている紋はある程度共通性を持っていることが考えられる。

### b 動物紋

次に動物紋においては使用されている紋の種類は植物紋に比して少なくなり、動物の種類から述べると9種類にすぎない。そして多用されている紋は鷹羽紋と蝶紋の2種類のようである。地方別に分けて見ると東北地方においては仙台・盛岡・福島共に鷹羽紋が他の動物紋に比べ圧倒的に多いことがわかる。次に用いられているのは蝶紋であり、また関東地方においても

東北地方と同様、鷹羽紋の多用が目立つ。水戸においては東北地方および関東地方の他の都市で鷹羽紋の次に用いられている蝶紋は用いられておらず、鷹紋が一番用いられており次に鷹羽紋と続くことが関東地方の他の都市と異なる。

東北・関東に此ベ中部・近畿および中国地方の岡山・広島市においては最も用いられているのは蝶紋であり、特に岡山・広島の蝶紋と鷹羽紋の差は著しい。

四国地方は調査数が少ないのでわからないが動物紋としては蝶紋等が用いられているようである。

九州地方においては長崎は蝶紋・鷹羽紋の順であるが、福岡・鹿児島・熊本共に鷹羽紋が最も用いられており次に蝶紋と続き、また鹿児島は鷹紋も多く用いられている。

また他の動物紋においては盛岡で鹿角紋が1位の鷹羽紋の次に用いられており、また鶴紋も比較的に全国で用いられているようである。

また前論文で述べた札幌市においては鷹羽紋が圧倒的に多く蝶紋の4.4倍を占め、動物紋使用の傾向は東北地方と類似している。

以上動物紋においても全国的に多用されている紋の種類は共通性を示す。

### c 文様紋

文様紋は植物紋に次いで多用されている紋章である。大まかな分類における紋の種類としては植物紋よりかなり少なく13種である。この文様紋で最も用いられているのは木瓜紋であり、これは2~3の都市を除いては全国各都市で文様紋中1位を占めている。このことにより木瓜紋も大衆化された紋といえる。特に他の文様紋より多用されている都市としては仙台47%、盛岡47%、宇都宮64%、富山79%、金沢87%、松江72%があり特に金沢・富山・松江市において木瓜紋の占める比率は大きい。

また目結紋は仙台・盛岡・長野・鹿児島において木瓜紋に次いで用いられている紋章であり、花菱紋も全国的に木瓜に次いで用いられており福島・富山・岐阜・静岡・甲府・大阪・京都・岡山・広島・松江・福岡・熊本・鹿児島・

長崎等で特に多く用いられており、岐阜・甲府・岡山・広島では文様中1位を占めている。

表を見てもわかるように文様紋も植物紋と同じように多用されている紋は全国的に同じような傾向にあるといえる。すなわち、前述の木瓜紋・目結紋・花菱紋の外に巴紋・菱紋等をあげることができる。

### d 器財紋

器財紋は紋の種類としては植物紋に次いで多種類が用いられているが、表によてもわかるように用いている氏の数は少ない。1氏のみが用いている紋もかなりあり、あまり大衆化されていない紋章ということができる。これら器財紋で特に多く用いられているのは仙台市における車紋をあげることができるとし、また同じく同市の笠紋にも地域性を見ることができる。全国的に比較的用いられている紋としては扇紋・矢紋・車紋等をあげができるがその数は少ない。

### e 天文・地理紋

次に天文・地理紋としての大まかな分類としては7種のみで、用いている氏の数は少なく全国的に星紋に集中していることがわかる。

### f 築造物紋・文字図符紋

次に築造物紋・文字図符紋は種類も数も少なくなっていることは全国同じ傾向であるが、鹿児島市において井筒・井桁紋が他の都市より多用されているのが目につく。

### g 各地方における多用紋について

表1により各都市における植物紋・動物紋・文様紋・器財紋・天文地理紋・築造物紋の使用程度を見ることができるが、次に動植物のような分類によらず多用されている紋の種類を調査した。区分は前述のように地理的区分を用いた。

東北地方における紋章は調査数1,505氏中、桐紋150氏、木瓜紋140氏、薦紋117氏、藤紋115氏、柏紋114氏、梅紋89氏、酢漿草紋84氏、鷹羽紋73氏、目結紋56氏、茗荷紋47氏となり、桐紋・木瓜紋がその上位を占め多用されている傾向は前論文に述べた札幌市の場合と類似してい

ることがわかる。

また関東地方においては調査数684氏中、酢漿草紋65氏、鷹羽紋65氏、藤紋62氏、木瓜紋61氏、柏紋47氏、薦紋37氏、茗荷紋28氏、沢瀉紋28氏となる。調査氏数が少なく東北地方と比較するのは不可能であるが、東北地方で大きな比重を占めていた桐紋は27氏で他の紋に比べて少ないことがわかる。また動物紋の鷹羽紋が多いことも特徴であろう。

中部地方においては調査数1,143氏中、薦紋184氏、木瓜紋121氏、酢漿草紋113氏、桐紋99氏、柏紋60氏、藤紋59氏、桔梗紋41氏、花菱紋41氏の順であり、薦紋が大きな割合を占めている。これも新潟の薦紋（姫薦）が群を抜いて多いのが特徴である。また東北・関東特に関東では上位を占めていた鷹羽紋がこの地方では少なくなっている。

近畿地方においては調査数641氏中、桐紋203氏、薦紋90氏、桔梗紋53氏、蝶紋31氏、酢漿草紋30氏と桐紋が圧倒的に多く他の紋の割合は他の地方に比べて低下する。

また東北・関東・中部地方までは木瓜紋の占める割合が大きいがこの地方では少なく21氏であり、蝶紋が31氏と多くなっている。

中国地方では調査数957氏中、桐紋148氏、蝶紋99氏、薦紋84氏、木瓜紋80氏、桔梗紋79氏、酢漿草紋64氏、橘紋37氏、梅紋36氏の順であり、この地方においても桐紋が最も用いられ、次に他の地方に比べて蝶紋の多いのが特徴である。

四国地方では調査数が81氏と少ないが桐紋が54氏で他より群を抜いて多く他は少ない。

次に九州地方においては調査数2,581氏中、桐紋389氏、薦紋219氏、桔梗紋197氏、梅紋182氏、木瓜紋170氏、藤紋147氏、花菱紋103氏、茗荷紋101氏、酢漿草紋100氏、鷹羽紋88氏、橘紋79氏、蝶紋68氏、柏紋65氏の順であり桐紋・薦紋が上位を占め、また桔梗紋・桜紋も他の地方に比べて多用されているのが目につく。

以上多用されている紋章について全体としていえることは用いられている紋章のほとんどが

植物紋であることである。これは表1の結果からも明らかである。その植物紋のうち関東・中部地方を除き他の地方は桐紋が最上位であった。桐紋が多いのは全国的な傾向であり、また他の紋も多用されている紋は類似しているが、前論文で述べた札幌も含めて東北地方以北は桐紋に次いで木瓜紋が多く、中部地方以西は薦紋が多いことも共通した特徴である。

植物紋で全国的に用いられている紋は順位は異なるが、桐・薦・酢漿草・藤・梅・柏・桔梗・茗荷等が多用されている。桐紋・薦紋が多いのは全国的な傾向であり中国・近畿・九州では薦紋に次いで桔梗紋が多用されており、東北・関東では藤紋が多用されている。また九州地方では梅紋の多用も特徴的である。

動物紋では札幌を含め関東以北および九州では鷹羽紋が多く、中国地方では桐紋に次いで蝶紋が多いのも特徴と思われる。九州地方においても蝶紋は鷹羽紋に次いで多用されている。

文様紋は多用されている木瓜以外の紋は比較的少ない。

### 3. 同一紋章における種類および形式について

前論文にも述べた通り紋章の種類は4,500種もあるが、現在多用されている紋の場合一つの紋章にもかなり色々の形をとって用いられていることがわかる。個々の紋について考えるとそれぞれ特徴をよく出して表現されており、独特なニュアンスをもつものもあるが全体としては同じような傾向が多いと思われるので、全国的に多用されている紋章についてその形、および種類を見ていきたい。多用紋の種類3、4種を表4にまとめた。

表4の結果から桐紋で多いのは五三の桐紋である。総数1,060氏のうち丸なし五三の桐が828氏を占めており、桐紋のほとんどということができる。次に多い丸に五三の桐が28氏であることから前論文でも述べたが、調査対照がほとんど女性であると思われるので丸を付けずに優雅な美しさの上で丸なし五三の桐が用いられてい

表4 紋の細分について

鷹の羽紋	用いている氏数	鷹の羽紋	用いている氏数	蝶 紋	用いている氏数
蔭違い鷹の羽	3	糸輪に蔭違い鷹の羽	1	藤輪に三つ蝶に梅	2
中輪に細違い鷹の羽	3	隅切角に並び鷹の羽	1	対い蝶に梅	1
中陰違い鷹の羽	2	二重隅切角に並び鷹の羽	1	三つ蝶に梅	1
抱鷹の羽	2	雪輪に並び鷹の羽	1	糸輪に浮線蝶	1
鷹の羽	2	丸に三つ鷹の羽車	1	蔭三つ蝶に梅	1
丸に細違い鷹の羽	2			細中蔭三つ蝶に梅	1
中輪に鷹の羽	2			浮線蝶隅立四つ目	1
中輪に違い鷹の羽	2			結び蝶	1
丸に並び鷹の羽	2			観覧羽	1
丸に覗き違い鷹の羽	2	揚羽蝶	219	扇羽蝶	1
並び鷹の羽	1	丸に揚羽蝶	48	丸に三つ蝶	1
雪輪に豆違い鷹の羽	1	糸輪に揚羽蝶	18	中輪に揚羽蝶	1
丸に蔭の羽の一の字	1	浮線蝶	9	細輪に對い蝶	1
丸に左重ね違い鷹の羽	1	中蔭揚羽蝶	7	石持地拔揚羽蝶	1
細輪に三重ね鷹の羽	1	糸輪に揚羽蝶	6	三つ揚羽蝶	1
阿部鷹の羽	1	蔭對い蝶	6	丸に影上下對い蝶	1
細輪に並び鷹の羽	1	変り浮線蝶	4	雪輪に對い蝶	1
中輪に並び鷹の羽	1	雪輪に前揚羽蝶	4	上下對い蝶	1
丸なし細違い鷹の羽	1	中蔭浮線蝶	3	北条對い蝶	1
細違い鷹の羽	1	中蝶車	3	雪輪に浮線蝶	1
細輪に蔭違い鷹の羽	1	蔭浮線蝶	2	中蔭光琳飛蝶	1
右に重ね違い鷹の羽	1	蝶車	2	三つ蝶の中に橋蝶	1
蔭偶切角に違い鷹の羽	1	蝶	2	対い飛蝶	1
隅切角に違い鷹の羽	1		2		1
		三つ蝶			

るのであろう。また一面において紋章の家紋としてのイメージがうすれてきていることも女性紋といわれる桐紋多用の一要因となっているものと思われる。この原型紋の外に蔭五三の桐や細輪・中輪・糸輪五三の桐の多いことも女性が多用している紋の特徴と思われる。

次に同じ植物紋の蔭を見ると総数802氏のうち、丸なし蔭が502氏を占めており、次の丸に蔭が62氏であることから蔭紋も桐紋と同じように女性が用いている場合が多いと思われる。蔭はからまって生きていくところから男性に依存して生きている女性の紋といわれるが、そればかりでなく桐紋と同様に構図の上からも美しい紋であり、その意味からも女性紋といわれるのであろう。この蔭紋には桐紋と同じように蔭紋も多くまた鬼蔭およびその変形と種類が多い。またこの蔭紋において姫蔭75氏のうち74氏が新潟市で後の一氏は岐阜であり、他の都市には全くないことから新潟市における一つの特色といえよう。

また文様紋では木瓜紋をあげたがこの木瓜紋は他の多用紋よりもその種類が多く、しかも他の紋との合成紋が多いのも一つの特色と考えられる。木瓜および木瓜と他の紋との合成紋を合せると全部で590氏になる。この紋も全国的

に多用されている紋ではあるが木瓜紋の最も基本である木瓜は153氏であり、桐紋・蔭紋のそれのようには用いられていない。また次に多用されている丸に木瓜が前述した二つの紋のそれらの比に比べて多いのも特徴であろう。またこの木瓜紋は合成紋がかなり用いられているが用いている氏の数は木瓜单独紋よりはかなり少ないことがわかる。ただし五瓜に唐花は全国的にかなり用いられており、また雪輪に木瓜紋31氏のうち30氏は松江市で用いられており松江市の特色を考えることができる。

次に動物紋においては全国的に多用されている紋として鷹羽紋と蝶紋をあげたが、鷹羽紋では二枚の鷹の羽をクロスさせた違い鷹の羽が最も多く用いられており、今まで述べた三つの多用紋との違いは丸を付した丸に違い鷹の羽が一番多く用いられていることである。丸なし違い鷹の羽の約2倍用いられており今まで述べた紋と逆の現象が生じている。これはこの紋は男性の紋と考えられざるいは紋付として着用した場合に均衡のとれたその美しさの上から丸を付した事は当然と思われ、この紋章の多いのは夫の家紋をそのままその家の紋として用いているからであろう。細輪に違い鷹の羽が比較的に多いのも女性が用いている同様の理由と考えられ

る。

次に蝶紋においては止蝶である揚羽蝶が蝶紋361氏のうちの219氏とその大半を占めている。この紋においても桐紋・薦紋・木瓜紋と同様の理由で丸なし揚羽蝶が多いものと思われる。この蝶紋の場合も蝶単独の紋が多く、次に対蝶の形式のものが用いられており他のものとの合成紋は少ない。

以上5種類の多用紋においてその紋の原型形式と思われる紋が最も用いられ、しかも鷹羽紋を除いては丸を付さないものが多く用いられている。また丸を付しても糸輪あるいは細輪の形式のものが比較的多いことがわかる。またどの紋においてもかなり多種類に分類されており、一つの紋がいかに多角的に構成されているかを知ることができる。

紋章は皆それぞれ形の上で完成された美しさを持っており一つ一つが格調の高いものであるが、ここに多用されている紋章はみな繊細な美しさを持つ。これらの点から考えられることは家紋を定めるときその美しさという点が主な要

因となったのであろうと推察される。

終わりに調査に御協力下さいました札幌今井デパート平松英一氏、盛岡市川徳、仙台市藤崎、福島市中合、水戸市志満津、宇都宮市上野、東京都新宿伊勢丹、横浜市野沢屋、甲府市岡島、長野市丸光、新潟市小林、静岡市田中屋、名古屋市松坂屋、岐阜市丸物、富山市大和、金沢市大和、京都市大丸、大阪市高島屋、姫路市やまとやしき、広島市天満屋、岡山市天満屋、松江市一畑、鳥取市大丸、徳島市丸新、高知市大丸、福岡市岩田屋、長崎市岡政、熊本市大洋、鹿児島市山形屋、以上のデパート呉服部に深く感謝申し上げます。

また暖かく御支援下さいました本学学長手島博士、御指導下さいました本学教授寺岡博士、およびお手伝い下さった本学副手小松怜子さんに厚くお礼申し上げます。

#### 引用文 献

若山：北星短大紀要、13、57（1967）。